

2022年10月7日  
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平  
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

ラオス国モンスーン風力発電事業  
(海外投融資)  
環境レビューに対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2022年9月30日（金）14:00～16:52
- ・場所：オンライン、JICA 本部 2階 227会議室および竹橋 804 会議室
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、小椋委員、谷本委員、米田委員
- ・議題：ラオス国モンスーン風力発電事業（海外投融資）に係る環境レビューについての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1) 【ESIA①】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー（Chapter1-7）
  - 2) 【ESIA②】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー（Chapter8-11）
  - 3) 【ESIA Appendices】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー
  - 4) 【IPP】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー
  - 5) 【IPP Appendices】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー
  - 6) 【RAP】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー
  - 7) 【RAP Appendices】モンスーン風力発電事業（海外投融資）環境レビュー
  - 8) 【環境レビュー方針】モンスーン風力発電事業（海外投融資）
  - 9) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2022年1月）

全体会合（第141回委員会）

- ・日時：2022年10月7日（金）14:00～17:16
- ・場所：オンラインおよびJICA 本部（2階 227会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 別事業の近隣の新規風力発電計画について詳細を確認し、可能な範囲で本事業との累積的影響を検討し、ADB と協議すること。

### **環境配慮**

2. ベトナムを含めた近隣保護区の本事業との位置関係及び本事業によるそれら保護区の希少種や自然林等に対する影響について再度確認し、影響が認められる場合には、環境社会管理計画（ESMP）に則り、生物多様性への影響緩和策が実施されることを確認すること。
3. Biodiversity Action Plan が提案された場合には、適切なオフセットプランになっているか、実現可能性を含めて確認し、不適切な場合は改善を事業者申し入れること。

### **社会配慮**

4. 同じ事業にあつて補償対象地域（Sekong、 Attapeu）によって果物の樹価にかかる補償金算定の考え方が相違し、その相違から補償単価に相当の違が生じている。補償金算定の考え方を統一するのが望ましいが、これら相違の背景を可能な範囲で確認するとともに、補償単価が市場価格に比して適正なものとなっており、生計回復に支障を及ぼすような低廉な補償単価になっていないかどうかを確認すること。同補償単価が適正価格と判断されない場合、補償単価の見直しを事業者申し入れること。
5. 森林にアクセス道路が通り風力発電タービンが建設されることにより非木材林産物への影響が予想されているが、軽微な影響であるということからモニタリングの計画が設定されていない。採集の担い手は女性であり、女性が担う生計への影響が予想されることから、工事中並びに供用時における非木材林産物採集者からの聞き取りを主としたモニタリングを行うよう申し入れること。

以 上